

U18日本代表で打線の中軸として活躍した山本(トヨタ自動機)

高知県立春野総合運動公園



県勢10人が攻守で貢献

ソフト男子アジアカップ U18、フル代表 そろって全勝V

ソフトボール男子の第8回U18アジアカップと第12回アジアカップは6月22〜28日、高知市の高知県立春野総合運動公園野球場などで行われ、そろって日本代表が優勝を飾り、長崎県勢10人が攻守両面で活躍した。

U18はコロナ禍による昨年の大会延期に伴い、今回は2004年1月〜07年3月生まれの選手が対象。県勢は高校生で外野手の鵜谷相太(大村工)と橋本怜(島原工)のほか、いずれも大村工高出身で捕手の上野結来(同大)と淀川瑛澄(岐阜聖徳学園大)、内野手の松尾唯斗(日本エコシステム)と山本陸人(豊田自動織機)が出場した。

雨天の影響で5チームの総当たりリーグで順位を決定。日本は初戦から4番山本が本塁打を放つなど香港に15-0で大勝すると、続くインド戦は橋本にも一発が飛び出した。台湾も下して3勝同士で迎えたシンガポール戦は県勢6人全員がスタメン出場。12-0で圧倒して全勝優勝した。

U18終了後の25日からトップカテゴリーのアジアカップが開催。日本は今回、強化と育成を視野に23歳以下主体チームで臨んだ。県勢は大村工高出身で投手の海邊和也(安川電機)、内野手の松尾翔輝(デンソー)、外野手の佐藤光希(トヨタ自動車)、島原工高出身で内野手の井上裕太郎(平林金属)が代表入りした。

6チームの総当たりリーグから上位による3位決定戦、決勝で競い、こちらでも日本は6戦全勝、無失点で頂点に立った。左腕海邊は3勝を挙げ、松尾、佐藤、井上も打線の中軸で大きく貢献。U18と合わせて県勢がソフト王国長崎の本領を存分に発揮した。

(写真は日本ソフトボール協会提供)

▽U18アジアカップ
▽総当たりリーグ
本15-0香港
本11-0インド
本10-0台湾
本12-0シンガポール

▽順位 ①日本
②アジアカップ
▽総当たりリーグ
本12-0インド
本2-0シンガポール
本10-0香港
本6-0フィリピン
本12-0台湾

▽決勝
本4-0シンガポール



圧倒的な強さでU18を制した日本代表

ソフト王国“本領発揮



里崎智也氏が野球教室

「好きになれば上達する」

20ポ... 正野... 一流... 市野... の野... 界一... で正... ボー... 20...

中村

V長崎だ

V・ファール...

6月30日、J1...

F中村慶太(30)...

籍で獲得したと...

流通経大卒業後...

6年か3年間で...